

# ベトナム人と日本人の「断り」方略

## ——文化的・社会的特徴

ゴ・フォン・ラン

### はじめに

「断り」という言語行為は諸言語における普遍的な行為である。他の言語行為と同様、「断り」の言語行為はその国の言語的要素および社会的要素の影響を受けている。「断り」の発話行為は、Brown & Levinson のポライトネス理論によると、相手の要求や希望などとは対応しない発話行為であるため、相手の「フェイス」を脅かす可能性が高い発話行為 (Face Threatening Act: FTA) である。そのため、断り手は断りの行為に及ぶ際、相手との社会的関係 (親・疎関係)、相手の年齢、社会的地位 (上・下関係)、そのコミュニケーションの背景および内容などを慎重に考慮しながら相手に嫌悪感や誤解を与えないように断りの行為を遂行する。

日本語とベトナム語における「断り」の発話行為には類似点と相違点がある。類似点については、日本とベトナムは東洋文化圏に属するため、東洋文化の特徴を持っていることである。コミュニケーションの面では、ベトナム人と日本人は相手の「フェイス」を侵害しないように、言葉や発言の内容、いわゆる言語のストラテジーを慎重に選んでコミュニケーションを行うことが多い。具体的に、依頼を断る場合、直接的な断りの表現だけで済ますことは少なく、間接的な断りの表現や意味が曖昧な言葉、婉曲的な断り方などを適切に用いて相手との対人関係をうまく処理することが多い。

しかし、日本とベトナムにはそれぞれ国の言語的特徴および社会的特徴があり、断り方にも相違がある。ベトナム人は断るとき、「今日家で法事があるので、行けない」、「おなかが痛いから行くことはできない」など、個人的な理由を含めて理由を詳しく説明すればするほど礼儀正しい断り方、あるいは丁寧な断り方だと見なされている。それに対して、日本人は「それはちょっと……」、「その日はちょっと」「都合が悪い……」、「用事がある……」など断りの理由をはっきり言わず、曖昧な断りや中途半端な断り方をするのが多い。そのため、「断り」の行為は、日本人とベトナム人が異文化コミュニケーションを行う際、誤解や文化衝突を招き、コミュニケーションの停滞を引き起こしやすい行為だと言ってもよいのである。

本稿は談話完成テスト (DCT) の調査結果を分析し、ベトナム語母語話者の大学生と日本語母語話者の大学生の依頼に対する断り方を明らかにするとともに、彼ら

がこうした断り方を選んだ理由に影響を与えている文化的・社会的要素について、  
解明を試みる。

## 1. 日本の大学生とベトナムの大学生の「断り」の方略

### 1.2. 調査の方法

筆者は、茨城大学・専修大学・京都大学の三つの大学で日本の大学生の依頼に対する「断り」の発話行為の調査を行った。調査対象者は大学2年生から4年生で、  
九つのクラスからランダムに選ばれた、計84名（男性：29名、女性：55名、年齢：  
19歳～22歳）である。

ベトナムでは、国民経済大学およびハノイオープン大学の二つの大学で調査を  
行った。調査対象者は大学2年生から4年生までの六つのクラスからランダムに選  
び、年齢は19歳～22歳で、計30名である。そのうち、男性は5名、女性は25名  
である。

調査方法は、DCT 調査（談話完成テスト／discourse complete test）を行った。調  
査対象者に設定場面が書かれた文章を読んで状況やその背景を想像してもらった上  
で、彼らならどのように話すかを実際に話すように書いてもらい、依頼・断りの談  
話を完成させてもらう。設定された場面は日常生活において遭遇しやすい場面であ  
り、具体的に「コンピュータのソフトを教えてもらう」友人（親しい友人と普通の  
友人）の依頼を断る、「お金を貸してもらう」友人（親しい友人と普通の友人）の  
依頼を断る、「資料を送ってもらう」上司（親しい上司と普通の上司）の依頼を断る、  
「休日に大学に行って大学祭のために会場を飾りつけてもらう」先生（いつもお  
世話になっている先生と普段挨拶を交わすくらいの先生）の依頼を断る」の四つの場  
面である。また、Brown & Levinson (1987) のポライトネス理論に基づき、調査  
場面に「社会的距離」（親・疎関係）、「社会的権力」（上・下関係）および実行負担  
度の軽い・重い「依頼内容」を取り入れた。

分析方法について述べると、調査結果はBeebe, Takahashi & Uliss-Weltz (1990)、  
生駒・志村 (1993)、藤原 (2003) などの「意味公式」の分類を参考にして、日本の  
大学生の依頼に対する断りの表現を分析した。

四つの場面は次の通りである。

想定場面が書かれた次の文章を読んで、状況やその背景を想像し、あなたならど  
のように話すか、実際に話すように書いてください。

場面1：金曜日の午後6時になりました。あなたが帰ろうとしているところに、  
Aさんがやって来ました。Aさんは、パソコンが得意なあなたに、あ  
るソフトの使い方を明日教えてほしいと言いましたが、あなたは翌日  
友人と会う約束があって、Aさんの依頼を引き受けられない状況です。

そのときあなたはどのように言いますか？

—A さん：あのう、ちょっと、お願いがあるけど、いいですか。

—あなた：うん、何？

—A さん：実はね、この間、新しいソフトを買ったんだけど、使い方わからなくて困っています。悪いけど、明日教えてくれませんか。

—あなた：.....

—A さん：そうですか。分かりました。

1. もし A さんが親しい友人なら、あなたはどうか断りますか。

あなた：.....

2. もし A さんが普段、挨拶ぐらいを交わす普通の知り合いなら、あなたはどうか断りますか。

あなた：.....

場面 2：あなたが勉強しているところに、B さんがやってきました。B さんは慌てて小さい声で「お金を貸してほしい」という話をしました。でも、B さんが借りたいお金はあなたにとってかなりの金額だったため、あなたは貸したくありません。あるいは、貸すことができません。そのときあなたはどのように言いますか？

—B さん：あの、今、ちょっといいですか。

—あなた：どうしたのですか。

—B さん：うん、実は、今月のお金、家族の用で全部使っちゃって、明日、部屋代と電気代を払わないといけないけど……。もし、できたら、5、6万円ぐらい貸してくれませんか。来月、すぐ返すから。

—あなた：.....

—B さん：分かりました。

1. もし A さんが親しい友人なら、あなたはどうか断りますか。

あなた：.....

2. もし A さんが普段、挨拶ぐらいを交わす普通の知り合いなら、あなたはどうか断りますか。

あなた：.....

場面3：午後3時です。あなたは今日中に終わらせなければいけない仕事があって、夢中で作業しています。突然、上司のCさんが来て、あなたに資料送付の依頼をしました。しかし、あなたはしなければいけないことがまだたくさんあり、その依頼にとっても困っています。そのときあなたはどのように言いますか。

—上司C：〇〇さん、ちょっといいですか。

—あなた：はい。

—上司C：急いで送らなければいけない書類があるんだけど、今お願いできますか。

—あなた：.....

—上司C：分かった。

1. もしCさんがいつもお世話になっている親しい上司なら、あなたは断りますか。

あなた：.....

2. もしCさんが普段に挨拶ぐらいを交わす普通の上司なら、あなたは断りますか。

あなた：.....

場面4：金曜日の夕方、あなたが帰ろうとしているところに、D先生が来ました。来週の月曜日に学部の設立記念パーティーがあり、D先生はあなたに明日（土曜日）か明後日（日曜日）に、会場の飾りつけなど、パーティーの準備の手伝いに来てほしいと言いました。しかし、あなたは、休日は本当に休みたいと感じています。そのときあなたはどのように言いますか？

—D先生：まだ帰っていないのですか。

—あなた：ええ、もうすぐ帰りますが……

—D先生：あのう、悪いけど、明日来てほしいです。月曜日のパーティーのために、会場の飾りつけをやりましょう。

—あなた：.....

—D先生：だめだったら、日曜日でもいいし。

—あなた：.....

—D先生：うん、わかった。

1. もしD先生がいつもお世話になっている親しい先生なら、あなたはどう断りますか。

あなた：(1) .....

D先生：だめだったら、日曜日でもいいし。

あなた：(2) .....

2. もしD先生が普段に挨拶ぐらい交わす普通の先生なら、あなたはどう断りますか。

あなた：(1) .....

先生：だめだったら、日曜日でもいいし。

あなた：(2) .....

## 1.2. 調査結果の分析

本研究はBeebe & Takahashi (1990)、藤森 (1994)、藤原 (2003) の意味公式の分類を採用し、発話内容の分析においてDCTで得られた発話から意味公式を抽出した。具体的には、日本の大学生が「依頼」を断るとき、次のようなのストラテジーを用いたことを明らかにした。

### 1.2.1. 日本の大学生

#### ——直接的断り

- A. 否定的言葉：いや、だめです。無理かな。無理ですね。ちょっと……。いや、悪いけど……
- B. 動詞の否定形：できない。できそうにありません。貸せません。時間が取れない。行けそうにない。手が回らない。そっちも空いていない。私は力になれないな……。引き受けられません……

#### ——間接的断り

- C. 願望：手伝いたいけど。力になりたいけど。いつもお世話になっているので、行きたいんですけど、無理です。行きたいのが山々なんですけど……
- D. 言い訳、理由・弁明：私も金銭的余裕がないので貸せません。明日予定があるので……。日曜日は私用があるんですよ。明日は都合が悪いから、ごめん。明日予定があるから。たまってる仕事があるのですぐに書類を送ることができません。土曜も日曜も予定が入っているので無理ですね。すみません。忙しくて手伝えません。所用があるので……
- E. 代案の提示：違う日であれば。別の日であればいいのですが。親とかに相談してみれば。別の日ならいいよ……
- G. 将来承知するという約束：他の日で都合がいい日があればその日でもいい

かな？ 別の日なら予定あけるけど、いつなら大丈夫？ 今度何かあったら言ってください……

- H. 自分の観点を言う（主張する）：明日ゆっくりしたいんです。私は手が回らないと思います。さすがにその額はちょっと貸せないかな。人にお金を貸すのはしていないのですみません。お金の貸し借りはだめだと思うからダメ。
- I. 条件提示：時間をもらえれば後でやりますが。少しだったら貸せるんだけど。一万円だけだったら貸すことができるけど……
- J. 相手の依頼の意図を止める：他の人で適当な人はいないんですか。できたら他の人に頼んで頂けるとありがたいです……
- K. お勧めの提示：他の人に頼んで頂いた方が早いと思います。お金の管理はちゃんとしようよ！
- L. 他の依頼を提示：もう少し待っていただいてもよろしいですか。ちょっと待ってください。予定確認します。他の方に頼んで頂けないでしょうか。他の人はいないの？
- M. 断りの傾向を承諾：ちょっと時間が取れそうにないです。貸したいのは山々なんだけど無理そう……。本当に役立たなくてごめんなさい。お役立たず……
- N. 繰り返し：飾りつけですか？ 明日ですか？ 親とかに借りれないの？
- O. 非難：それにあまりお金を借りることは良くないよ。大切な友達をなくしてしまうよ。お金のかしかりはだめだと思うから。そんなこと急に言われても……困るんですけど……
- P. フィラー：まじか、んー……。え～嫌だよ～
- Q. 断るかどうかわ迷う：お前とはお金関係でいざこざになりたくないからあんまり貸し借りはしたくない。それに額が額だよ。けどお前の力になりたいから全部は無理だけど、少しなら考えるよ……。そうですね、うーん。
- R. 謝罪：大変申し訳ありませんが……。申し訳ないけど、ごめんなさい。ごめん、けど。すみませんが。すいません……

## 1.2.2. ベトナムの大学生

### ——直接的断り

- A. 否定的言葉：無理。私も無理だ。いや、だめだ。明日はだめ。今はだめ。……しまったよ。
- B. 動詞の否定形：お前の力にならない。今回力になれない。明日は行けない。先生、明日私は行けないですよ。日曜日も行けないです。今お金を持っていない。今先輩のお手伝いできません。

### ——間接的ストラテジー

- C. 願望：手伝いたいけど、今他の仕事はまだあるから……
- D. 理由・説明：忙しいので。先輩分かってもらったらいいのに。今超忙しいのよ。今私用があるの出かけないといけない。うちの母の仕事を手伝わないといけないから。お姉さんの結婚式に行かないといけないので、日曜日は田舎へ帰らないと。私もお金ぎりぎりだ。勉強しに塾へ行かないといけませんから。日曜日は泳ぎに行きますから。日曜日に手伝わないといけない母の仕事があるので……。課長、今私は仕事がたくさん残っているので。明日急な用事があるから。このごろ勉強が大変で、週末に休みたいです。俺も数ドンだけ持ってて、節約して使ってるよ。先生、試験の後で家族で海水浴に行くから、手伝えないです。その日両方とも重要な仕事がある。お金がない。母と一緒に田舎へ帰らないといけない。日曜日の夜まで田舎です。K51のクラスの送別会の準備で執行委員会の会議があるから、それを休めない。義理の姉の出産でそのお祝いの準備ですぐ家に帰らないといけません。日曜日は祖父の法事があって、参加できません。
- E. 代案の提示：他の人に頼んだらいいじゃん。そういう大きい額がないので、数十万ドンなら貸せるけど。じゃ、先生を手伝える後輩に聞いてみます。明後日なら時間があるけど。グーグルサーチしてみよ（だめなら、夜帰った時見てあげるよ）。今お金を持っていないけど、うちの両親に聞いてみるね。すいません、そんなお金はないよ、少しならいいけど。Aさんに聞いてみます。Aさんは今週末暇なようです。
- G. 将来引き受ける約束：他の時ね。他の人に聞いてみて、あるいは他の日に手伝えてあげるよ。他の日でもいい？ 明日約束あるから、週末にね！
- H. 自分の観点を主張する：そのお金は重要なことに使わないといけないから、ごめんね。元気になるように明日休みたいです。勉強のために健康〔体〕を大切にするので、〔週末に〕休みたい。明日休むんですよ。日曜日は家で休みたいです。このごろ疲れているから。またたくさんしないといけないことがあるから（先生の仕事を手伝えないです）。日曜日はリラックスに使いたいです。フーフー、日曜日でも休みたい……
- I. 依頼を引き受ける条件提示：必要なら、他の日にしましょう。課長、私はまだ課長が与えた仕事があるから、今これをやったら、両方ともうまくできないのです。急がなければ、明日やります。少しなら貸してあげるけど、そんな額ならやっぱだめよ。あったらすぐ貸してあげるよ、まあ、今ないからしょうがない……
- J. 相手の依頼の意図をやめさせようという試み：いや、他の時にしてよ。いや、他の人に聞いてみてよ。自分で調べてみてよ。他のとき来るから、他の日にせよ！ いやいや、もう約束あるから。
- L. 他の依頼を言って断る：他の人に聞いてもらえないの？ 他の人に聞いてく

ださい！ 課長、他の人に聞いてくださいますか？ 他の人に頼んでくださいますか。今忙しいから……、Mさんに聞いてくださいよ、あいつもこのことが詳しいから。他の人に聞いてくださいますか。他の人に聞いてみてください。

- M. 断りの傾向を承諾：私も人にお金を借りてるよ。ごめんね！
- N. 繰り返し：明日ですか？、100～200万ドンはどこから取れると思う？ なんでそんなにたくさんお金欲しいの？
- O. 批判：早く言ってくれればいいのに。昨日学費を出すのに、全部お金使っちゃったよ。月末になると、みんなお金がないよ。あなたじゃないよ。先生、この間週末休ませてくれると言ったのに……。課長、早く言ってくれればいいのに……
- P. フィラー：まずい、日曜日忙しいのよ。俺も死にそうに貧乏だよ。先生、とても疲れていますよ。死んだ！ 私お金ないよ。死んだ！ 今急用があるから、他の人に聞いてみてくれる？ 死にそう！ 明日も用事あるのよ。
- Q. 断るかどうか迷う：どうしよう？ すぐ必要なの？ 私は10万ドンしか持っていないよ。
- R. 謝罪：先生、申し訳ありません。他の人に聞いてくださいますか。すいません、今用事があるんで……。ごめんね！ 課長、すみませんが。まだ仕事たくさんありますので……。ごめんね、今回力になれない……
- S. 残念な気持ち：残念（私もお金がないよ）。残念です。早く教えてください。残念！ 明日用事がある。
- T. 相手の共感を呼びかける：課長、分かってくれよ、今忙しいです。先生、ご理解いただきたいのですが……。いつも頼まれるとき、用事があるので、分かってくれれば……。分かってくれよ！ わたしもお金がないのよ。先生、分かってください。母と一緒に田舎へ帰らないといけないので……。先生、家族の用事があるので、分かってくれれば……
- U. 許可をもらう：明日休ませてください。土日両方とも休みたいのですが、いいですか。明日資料を送ってもいいですか。今課長が与えた仕事はまだ終わっていません。
- V. 冗談（乱暴なことば）：旦那さま、あたしゃお金持ちじゃないよ。お前をほっとくよ。そんなお金、ないよ。お前馬鹿じゃん！ 超忙しいよ！ 行けよ！ 週末ですよ、先生！ 月曜日に先生の「オシン」（お手伝い）を務めます。
- X. 呼称：先生、明日来られないです。お前さま。お前。あなた。課長。課長、課長、今仕事いっぱいなのよ！ 先生……
- Y. 肯定的な答えを出したが、後で断る：はい、いいですよ。ただ、今用事があるので……。ええ、でも、そのソフトの使い方がわからないよ。



表1 日本の大学生とベトナムの大学生の「依頼」に対する「断り」のストラテジーの使用頻度比較 (単位: %)

TH		A		B		C		D		E		G		H		I	
		JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV
1	T	11	16.6	9	10	0.9	0	27	90	11	10	4.6	33	0.9	0	6.4	0
	S	12	3.3	5	6.6	1	3.3	32	100	3.2	10	1	23	1	0	3.2	0
2	T	7.9	6.6	9.2	36	5	3.3	25	66	1.3	13	0	0	5	0	7.9	3.3
	S	12	3.3	20	23	0	0	24	66	0	0	0	0	1.4	0	0	0
3	T	1.1	6.6	7	13.3	1.1	3.3	32	100	0	10	4.5	10	0	0	4.5	3.3
	S	4.9	0	13.4	15	0	0	32	76	0	3.3	0	0	0	0	0	0
4	T	10.8	0	10.8	15	1.8	0	33.3	100	0	3.3	0	3.3	5.4	16.6	1.8	0
	S	12.5	0	17.8	6.6	0	0	33.9	100	0	3.3	0	0	0.9	6.6	0	0

TH		J		K		L		M		N		O		P		Q	
		JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV
1	T	0	3.3	0	0	2.8	16.6	0.9	0	0	6.6	0	0	0	0	0	3.3
	S	0	0	0	0	4.2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0
2	T	0	3.3	2.6	0	1.3	13.3	0	0	2.6	3.3	1.3	10	3.9	3.3	0	6.6
	S	0	3.3	0	0	2.8	13.3	0	0	1.4	0	2.8	6.6	0	3.3	0	0
3	T	1.1	3.3	1.1	0	9	30	3.4	0	4.5	0	0	0	0	6.6	1.1	0
	S	0		0	0	11	26.6	1.2	0	0	0	1.2	3.3	0	0	1.2	0
4	T	0	3.3	0	0	2.7	6.6	0.9	0	2.7	0	0	3.3	0	3.3	0.9	0
	S	0	3.3	0	0	0.9	6.6	0	0	0.9	0	0	0	0	6.6	0.9	0

TH		R		S		T		U		V		X		Y	
		JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV	JJ	VV
1	T	26	23	0	6.6	0	6.6	0	0	0	16.6	0	6.6	0	0
	S	35	26	0	3.3	0	20	0	0	0	0	0	0	0	0
2	T	26	10	0	0	0	16.6	0	0	0	10	0	0	0	3.3
	S	35	30	0	3.3	0	6.6	0	0	0	3.3	0	0	0	0
3	T	29	16.6	0	0	0	20	0	0	0	3.3	0	20	0	3.3
	S	35	20	0	3.3	0	20	0	0	0	0	0	3.3	0	3.3
4	T	28.8	16.6	0	10	0	10	0	3.3	0	0	0	30	0	0
	S	32	13.3	0	6.6	0	20	0	3.3	0	0	0	6.6	0	3.3

注: A～Sは断り「意味公式」(断りのストラテジー)

THは場面、Tは「親」の社会的関係、Sは「疎」の社会的関係

JJは日本語母語話者の大学生、VVはベトナム語母語話者の大学生

## 2. 日本人とベトナム人の断る発話行為における社会的・文化的特徴

Brown & Levinson のポライトネス理論 (1987) によると、各言語行為は「フェイスを脅かす (Face Threatening: Ft)」可能性がある。そして、Brown & Levinson は下記のように「相手のフェイスを脅かす (Ft) 度合い」、すなわち「フェイス侵害度 (Ft 度)」を見積もる「フェイス侵害度見積もりの公式」を出した。

$$W_x = P_{HS} + D_{SH} + R_x$$

フェイス侵害度を具体的に数量化できるわけではないが、この相手の「フェイス侵害度 ( $W_x$ ) は、話し手 (Speaker) と聞き手 (Hearer) の「社会的距離 (Social Distance)  $D_{SH}$ 、聞き手 (Hearer) の話し手 (Speaker) に対する「力 (Power)」 $P_{HS}$  と、特定の文化におけるある行為 ( $x$ ) が「相手にかかる負担度」の絶対的順位 (Absolute ranking of imposition)  $R_x$  という三つの要因によって総合的に規定されるという。そこで、Brown & Levinson は「ポライトネス戦略は、人間の言語的コミュニケーションに発生した「フェイス侵害度」を軽減するために適用される戦略である」と捉えた。

上記の三つの社会的・文化的要素は、ベトナム人と日本人の「断り方」(断り戦略) の選択に影響している要素であると考えられる。

### 2.1. 社会的距離 (親・疎関係)

「社会的距離」(親・疎関係) の変数は各場面に取り入れた。日本人学生とベトナム人学生の調査対象者は親しい友人と普通の知り合いに対する依頼の「断り」をそれぞれ書くように要求された。第1と第2の場面は親しい友人と普通の友人の依頼を断る。第3と第4の場面はお世話になっている上司 (先生) と普通の上司 (先生) の依頼を断るという設定である。

日本人大学生に対する調査の結果から、「コンピュータソフトを教えてもらう」という依頼を断る、第1場面では下記の特徴が明らかになった。親しい友人に対しては「謝罪、弁明、約束、代案の提示」など、たくさんの間接的戦略を同時に使っているのがわかる。また「約束」や「代案の提示」の断り戦略は、「疎」の関係より「親」の関係の方が使用頻度が高い (3.2%と6.4%)。

第2場面、「お金を貸してもらおう」という依頼を断る」の調査結果によると、直接的断りが多いが、親しい関係と親しくない関係では差がある。親しい関係では、直接的な断りの使用頻度は「否定の意味を持つ言葉」が7.9%、「動詞の否定形」が9.2%であるが、親しくない関係では、このパーセンテージが12%と20%に上がった。日本人は「親しい関係」を重視するため、親しい友人の依頼を断る場合はいきなり

直接「ノー」と言うのを避けている。ただ、親しくない人に対しては、「ノー」とより簡単に言えるだろう。

第3場面は「上司の「資料送付」という依頼を断る」場面である。第4場面は「休日学校に行って、会場の飾りつけを手伝ってもらおう」という先生の依頼を断る」場面である。第3と第4場面の調査結果は第1と第2場面と同じ要素がある。具体的に言うと、親しい関係では間接的な断りのストラテジーが多く使われる。要するに、社会的距離（親・疎関係）は日本人の断り表現の選択に重要な影響を与えており、特に親しい関係の人たちからの依頼を断る場合、言葉使いに気を配っており慎重に断り表現を選んでいることが明らかになった。

ベトナム人大学生に対する調査の結果から、ベトナム人は日本人と異なり、親しい関係でも直接的断りを多く使うことがわかった。第1場面での直接的断り（「否定的言葉」）の使用頻度は、親しい関係の場合16.6%、親しくない関係の場合3.3%に過ぎない。また、「否定形動詞」の使用頻度は親しい関係で10%、親しくない関係で6.6%である。第2場面も、直接的断りの「否定的言葉」は親しい関係で6.6%、親しくない関係で3.3%である。そして、「否定形の動詞」も「親」の関係で36%、「疎」の関係では23%に下がった。

ただ、第3と4の場面は、「親・疎関係」とともに、社会的権力の「上・下関係」の変数も取り入れられているので、上記の結果があまり見られない。つまり、ベトナム人の断り方には、社会的距離「親・疎関係」も影響を与えているが、社会的権力「上・下関係」の方が影響力が強い、といえる。

## 2.2. 社会的権力（上・下関係）

社会的権力「上・下関係」は、日本人とベトナム人学生の断り表現の選択にある程度影響を与えている。この「上・下関係」の変数は「上司の依頼を断る」第3場面と「先生の依頼を断る」第4場面に取り入れられた。

日本人学生の調査結果によると、第3と第4の場面では、直接的断りが少なく、間接的断りの方が圧倒的に多い。つまり、日本人は目上の人への依頼を断る際、断り方をよく考慮していることがわかる。特に、「親しい」上司の依頼を断る際、否定的言葉を使用する頻度は1.1%に過ぎず、否定形動詞は7%である。また、親しくない場合はこのパーセンテージが4.9%と13.8%となり、他の場面と比べてやや少ない。また、「謝罪+理由」で間接的に断ることが多く、第3・4場面の断り表現の29%～35%を占めている。「他の依頼を提示する」という断り方も多く、「親しい」関係で9%、「親しくない」関係で11%に上る。さらに、「約束」「条件」「繰り返し」は「親しい関係」の場合、それぞれ4.5%である。ただし、親しくない関係ではこのような表現は用いられない。このことから、断る側の責任感や謝る気持ちは「普通」の関係より「親しい」関係の方でよく見られ、「社会的距離」の親・疎関係が日本人の断りの方略に強く影響していることが明らかになった。要するに、日本人

にとって社会的権力「上・下関係」は社会的距離「親・疎関係」ほど強い影響力を持っていない（断りの表現があまり変わらないことからわかる）が、日本人の断り方にある程度の影響を与えている（権力要素がない場合に比べて直接的な断りの使用頻度が少ない）。

ベトナム人学生の調査結果によると、社会的権力「上・下関係」はベトナム人の断り方に大きな影響を与えている。具体的に、第3と第4の場面では、直接的断りの使用頻度が「権力要素」がない第1と第2の場面に比べて低くなり、「だめ」「無理」「いや」「難しい」「困る」など否定的言葉の使用頻度が親しい上司に対しては0%、親しくない上司に対しても6%に過ぎない。特に、以上の否定的言葉の使用頻度は、先生に対する場合、親・疎関係いずれも0%である。また、「手伝えない」「力になれない」「来られない」など、否定的動詞は6.6%～13%に過ぎず、「権力要素」がない第1と第2の場面に比べて非常に少ない（第1と第2の場面は10%～36%）。一方で、「謝罪」「思いやり」「呼称」などの文頭・文末で使われる言い回しや間接的な断り表現は、聞き手（断られる側）の「フェイス侵害度」を軽減するために多く使われる。「謝罪」の使用頻度は、親しい上司に対しては16.6%、親しくない上司に対しては20%である（第3場面）。また、この「謝罪」という断りの方略は、親しい先生に対しては16.6%、親しくない先生に対しては13.3%である（第4場面）。ベトナム人では、「理解していただく」という思いやりの表現の使用頻度も高く、各場面いずれにおいても20%である。「呼称」の使用頻度は3.3%から20%で、親しい関係の人に対してしか用いられない。また、「呼称」は目上の人によく使われ、「断り」の負担度を軽減する断りの一つの方略でもある。最後に「言い訳・理由弁明」の断り方が一番使用頻度が高く、すべての断りのほぼ100%を占めている（第1表、Dの「意味公式」を参照）。

### 2.3. 実行負担が軽い・重い依頼を断る場合

第1場面は「コンピューターソフトを教えてもらう依頼」を断る場面であり、依頼の案件は簡単で、また依頼される人もコンピューターに詳しいので、実行負担が軽い依頼内容であるといえる。ただ、実行負担が軽い依頼内容であるため、逆にこの依頼を断りにくいともいえる。

日本人学生の調査結果によると、「断りにくい」場面では、直接的断りよりも間接的断りの方がよく使われる。間接的断りの中では「謝罪+弁明」が一番よく使われ、親しい関係での使用頻度は26%、親しくない関係での使用頻度は35%である。次に「謝罪」26%、「代案」11%（なお親しくない場合3.3%しかない）、「将来引き受ける約束」4.6%、「他の依頼を言って断る」2.8%と続く。また、依頼を引き受けた気持ちを表す「願望」と「断りの傾向を承諾」という断り方の使用頻度は低く、いずれも0.9%である。

ベトナム人学生の調査結果では、第1場面は日本人学生と同じように直接的断り

が他の場面より低く、10%程度を占めている。また、直接的断りよりも間接的断りの方がよく使われ、一番使用頻度が高いのは「言い訳・理由」で、90%（親しい場合）～100%（親しくない場合）である。次に「謝罪」である。親しい関係では23%、親しくない関係では26%である。また、「謝罪」の言い換えである「ご了承ください。ご理解ください」など「相手の共感を呼びかける」意味公式も使用頻度が高く、親しい関係で6.6%、親しくない関係では20%に上った。続く「代案」は「親・疎関係」とともに10%であり、「将来引き受ける約束」は親しい関係で33%、親しくない関係で23%である。他に、「他の依頼を言って断る」という断り方は16.6%（親しい関係）と13.3%（親しくない関係）である。なお、日本人学生に見られない「冗談、乱暴な言葉」の使用頻度はベトナム人学生でやや高く、親しい関係で16%、親しくない関係で0%である。

第2場面は「お金を貸してもらって依頼を断る」場合である。あまりないことで、実行負担が重い依頼であるため、断る者にとって断りやすいともいえる場面である。日本人学生について見てみると、親しい友達から依頼を受けた場合、直接的な断り表現の使用頻度がやや高く9.2%であるが、親しくない友達から依頼を受けた場合この頻度はさらに多く、20%に上る。

同じ場面のベトナム人学生について見ると、直接的な断りが非常に多く、36%に上る。また、間接的な断り方である「言い訳・理由弁明」や「謝罪」などは他の場面と比べてやや少なくなり、ベトナム人学生は66%、日本人学生は26%である。「お金を貸す」ことはあまりないことであるため、必ず理由を言って断る、あるいは謝罪を言う必要がないからであろう。間接的な断りの中で、様々な表現が使われ、特別な表現も見られる。たとえば、「批判」3.3%（日本人学生：「それにあまりお金を借りることはよくないよ」。ベトナム人学生：「早く言ってくればいいのに」……）、「フィルター」3.9%（日本人学生：「まじか、んー、え、嫌いだ」。ベトナム人学生：「死にそう！俺も死にそうに貧乏だよ」……）、「繰り返し」3.3%（日本人学生：「親とかに借りられないの？ベトナム人学生：どこから100～120万ドンを取れると思うの？」）、「自分の観点を言う」5%（お金を貸し借りはだめだと思うからダメ）、「冗談」3.3%～10%（ベトナム人学生だけ用いる：「金持ちだと思っているの？馬鹿じゃない？月曜日に先生の「オシン」〔お手伝い〕に勤めますよ」……）などである。

第3と第4場面は「社会的権力」の要素を取り入れた。第3場面は「書類を送る」という上司の依頼を断る」場面、第4場面は「休日に大学に行って会場の飾りつけを手伝ってもらって先生からの依頼を断る」場面である。調査結果によると、日本人学生とベトナム人学生、ともに直接的断りよりも間接的断りの方が圧倒的に多く用いられる。特に、第4場面の「会場の飾りつけ」という仕事は当然すべきことではなく、休日をお願いすることなので断る理由が多い。ベトナム人学生では「理由・弁明」の使用頻度が100%であり、日本人学生では35%となっている。なお、両者が提示した言い訳・理由の内容は大きく異なっており、その具体的な分

析は次の項(2.4)で述べる。

#### 2.4. コミュニケーション文化の特徴

ベトナム語にはコミュニケーションルールについてのことわざが多く、なかでも「話す言葉はお金で買うものではないから相手に満足させる言葉を選んで話してください」や「話す前に7回舌を曲げてください」などが代表的である。今回の調査結果から、ベトナム人学生は断るとき、多くの断りのストラテジーを同時に使うことがわかる。たとえば、【呼称+謝罪+弁明+代案の提示+共感の呼び】、【弁明+約束+謝罪】、【共感の呼び+直接断り(否定的言葉)+弁明+謝罪】、【弁明+約束+共感の呼び】などの意味公式が挙げられる。長々と詳細に理由を説明して断るのがベトナム人の特徴である。

同じ東洋文化圏にある日本人は、ベトナム人と同様、断るとき、断られる人の「フェイスの侵害度」を軽減するために、直接的な断り方よりも間接的な断り方をよく用いている。また、「謝罪」は「フェイス侵害度」を軽減するポライトネス・ストラテジーとして多く使われている。ベトナム人が長々と詳しく理由を説明するのに対し、日本人は中途半端な断りが多い。つまり、「今日はちょっと」、「それはちょっと」、「無理かな」など中途半端な言い回しで相手に「断り」という空気を察してもらうのが普通である。さらに、「理由・弁明」のストラテジーも多く使われる。

日本人とベトナム人の「理由・弁明」の内容は異なる点がある。ベトナム人は理由を述べるとき、「日曜日に母と田舎へ帰る」、「親戚の結婚式に行かなければならない」、「姉が出産したから早く家へ帰らないといけない」、「私もお金がない。10万ドンしか持っておらず、月末までの生活費のために節約して使わないといけない」など、家族・親戚に関連する個人的な理由が多く、断りの理由のうち80%を占めている。つまり、理由を詳しく説明すればするほど、礼儀正しい丁寧な断り方だとベトナム人が見なしている。

日本人はベトナム人と違って、個人的な理由では納得しにくい。日本人が提示した理由にきちんと説明したものはなく、「予定が入っていて……」、「その日は用事がある……」、「その日は都合が悪くて……」など、「嘘」の理由<sup>1</sup>、つまり断るための単なる言い訳を述べることが多い。また、「それはちょっと」や「今日はちょっと」など、長々と理由を言わない中途半端な断り方は日本人にとってはっきりした断りの「信号」だとされている。

以上に述べたように、ベトナム人と日本人では断り方に相違点がある。このよう

1 森山(1992)は日本人の断り方略を四つの類型にまとめた。それらは、「嫌型」(やりたくない)、「嘘型」(都合がつかない)、「延期型」(考えておくと行ってその場をごまかす)、「ごまかし型」(笑ってごまかす)である。参考文献10の藤原智恵美(2003)、31頁。

な相違点は、ベトナム人と日本人の異文化コミュニケーションの中で誤解を招き、両者のコミュニケーションを停滞させる可能性もある。この問題に関しては、確かにベトナムと日本の民俗文化や心理的な特徴などを深く考察する研究が必要になる。

## 結論

「断り」の行為は、日本人とベトナム人が異文化コミュニケーションを行う際、誤解や文化衝突を招き、コミュニケーションの停滞を引き起こしやすいとの問題意識に基づき、本稿では、日本人とベトナム人の文化的・社会的要素の背景を明らかにすることを目指して、日本の大学生とベトナムの大学生の依頼に対する断りの方略（表現、意味公式）を明らかにした。

調査の結果、以下の点がわかった。①一番使用頻度が高い断りの表現は「謝罪」と「理由の説明」であるが、日本人は嘘の理由、つまり断るための単なる言い訳を述べる場合が多いのに対し、ベトナム人は詳細に理由を説明すること、そしてその理由は「家族・親戚」に関するものが多いこと。②日本人が断りの表現を選ぶとき、社会的距離（親疎関係）の要素が強く影響しているが、社会的権力（上下関係）の要素もある程度影響していること。他方、ベトナム人が断りの表現を選ぶときは、社会的権力（上下関係）の方が重要であること。③実行負担が重い依頼を断る場合、つまり気軽に断れる場合は直接的断りが多いものの、いきなり「だめです」、「できません」と切り出すのではなく、まず「理由」を述べ謝罪を述べるパターンが多い、ということがベトナム語と日本語の両言語で見られる。

## 参考文献

1. Austin, J. L. (1962) *How to do things with words*. Oxford: Clarendon Press [Bản dịch tiếng Nhật / 坂本百大訳 『言語と行為』 大修館書店、1978 年]
2. Brown, P. and Levinson, S. C. (1987) *Politeness: Some universals in language usage*. Cambridge: Cambridge University Press
3. Nguyễn Thị Vũ Loan (2008) *Khảo sát phương thức ngôn ngữ biểu hiện hành vi từ chối lời cầu khiến trong tiếng Hán hiện đại (liên hệ với tiếng Việt)* - luận văn thạc sĩ, ĐH KHXH & NV, Hà Nội [ゲン・ティー・ブー・ロアン (2008) 『現代の漢語における依頼に対する断り発話行為の表現を考察』 修士論文、ハノイ国家大学人文社会科学大学]
4. Trần Chi Mai (2005) *Phương thức biểu hiện hành vi từ chối lời cầu khiến trong tiếng Anh (Liên hệ với tiếng Việt)*. Luận án tiến sĩ, ĐH KHXH & NV. [チャン・チ・マイ (2005) 『英語における依頼に対する断りの表現 (ベトナム語と比較)』 博士論文、ハノイ国家大学人文社会科学大学]
5. Nguyễn Phương Chi (2004) *Một số đặc điểm ngôn ngữ - văn hóa ứng xử của hành vi từ*

- chối trong tiếng Việt (có sự đối chiếu với tiếng Anh)*. Luận án tiến sĩ, Viện Ngôn ngữ học [グエン・フォン・チー (2004) 『ベトナム語における断り発話行為の言語的・文化的特徴 (英語との比較)』 博士論文、言語学院]
6. Ngô Hương Lan (2012) “Lịch sử nghiên cứu hành vi ngôn ngữ từ chối trong tiếng Nhật.” *Tạp chí Nghiên cứu Đông Bắc Á* (9), tr. 52-64 [ゴ・フォン・ラン (2012) 「日本語の断り言語行為の研究歴史の概観」『東北アジア研究雑誌』2012年9号、52～64頁]
  7. Nguyễn Thị Hải Yến (2010) “Hành vi từ chối lời mời của người Việt Nam và người Nhật Bản.” Hội thảo tiếng Nhật, ĐHNN, ĐH QGHN [グエン・ティエー・ハイ・イエン (2010) 「ベトナム人と日本人の勧誘に対する断り行為」『日本語シンポジウム』ベトナム国家大学]
  8. Ngô Hương Lan (2013) “Cách sử dụng lời từ chối trong tiếng Nhật của sinh viên Nhật Bản.” *Tạp chí Ngôn ngữ và đời sống* (số 10-2013 [216]), Hội Ngôn ngữ học Việt Nam, tr. 37-44 [ゴ・フォン・ラン (2013) 「日本人学生の断り発話行為の考察」『言語と生活』雑誌2013年10号(216)、37～44頁]
  9. 馬場俊臣 (Baba Toshiomi) (1994) 「日中両語の断り表現をめぐって」『北海道教育大学紀要』(第1部A)第45巻第1号、43～54頁
  10. 藤原智恵美 (Fujiwara Chiemi) (2003) 「日本語母語話者とインドネシア語話者の「断り」に関する研究」大阪大学大学院言語文化研究科博士学位論文
  11. 金潤淑 (Kim Yun Shuk) (2005) 「「依頼」に対する「断り」の理由の述べ方——日本語母語話者と韓国人日本語学習者の場合」『国際教育評論』東京学芸大学国際教育センター編、37～48頁
  12. Yim Hyun Soo (2004) 「日韓断り談話に見られる理由表現マーカ——ウチ・ソト・ヨソという観点から」『日本語科学』15 (2004年4月)、22～43頁